

令和5年度「地域と共にある学校づくり」に関する実態調査結果

地域学校協働活動推進員等について

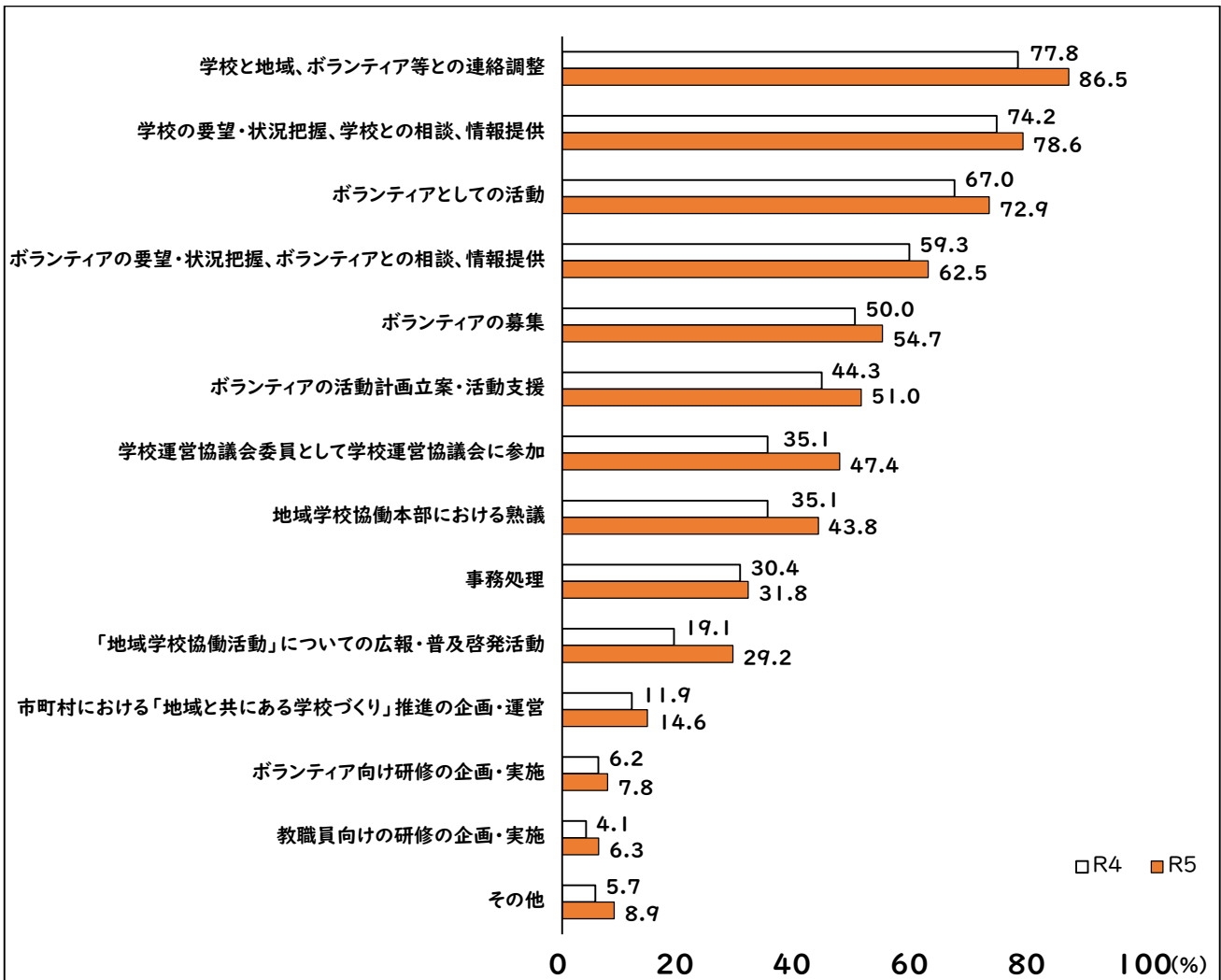
地域学校協働活動推進員等の現状について

(昨年度)

- (1) 1か月間の平均活動時間数 8.8時間(9.6時間) ※県平均値
 (2) 1か月間の平均学校訪問回数 4.2回(3.7回) ※県平均値

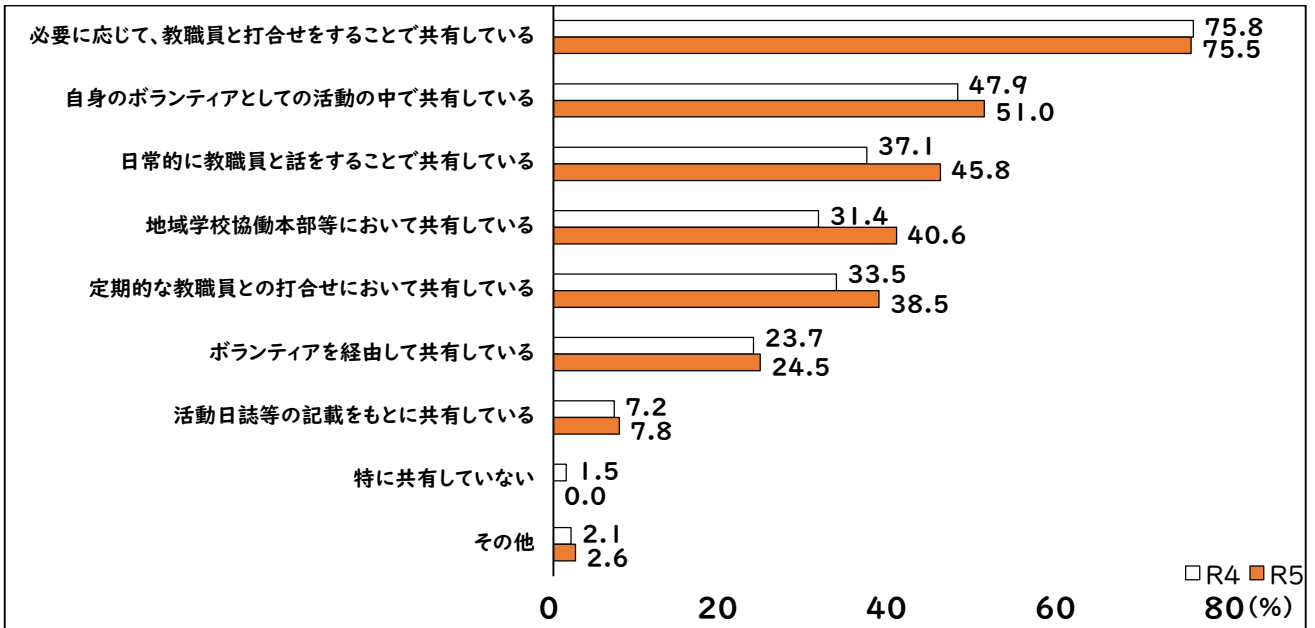
地域学校協働活動推進員等としての活動について

◎地推員等として取り組んでいる活動内容(複数回答)



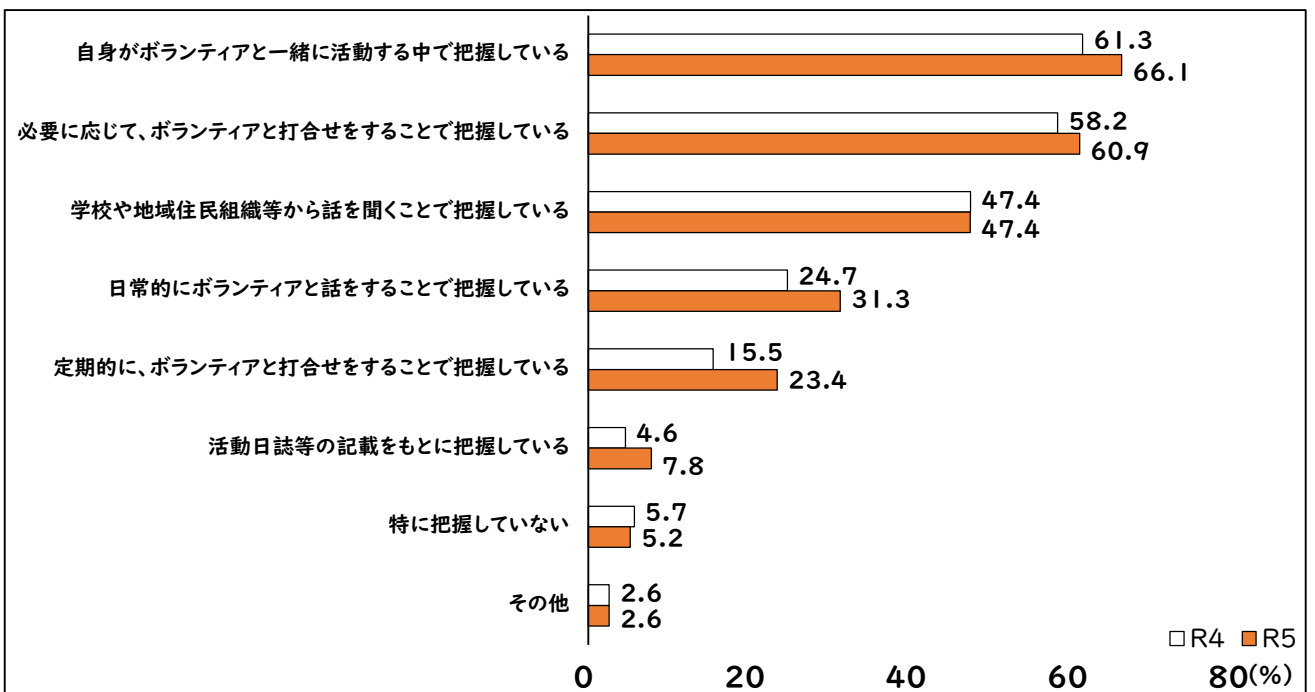
◎地推員等として取り組んでいる活動内容は、自身の「ボランティアとしての活動」だけではなく、「学校と地域、ボランティア等との連絡調整」、「学校の要望・状況把握、学校との相談、情報提供」、「ボランティアの要望・状況把握、ボランティアとの相談、情報提供」、「ボランティアの募集」など多岐にわたっています。

◎学校との情報共有の方法（複数回答）



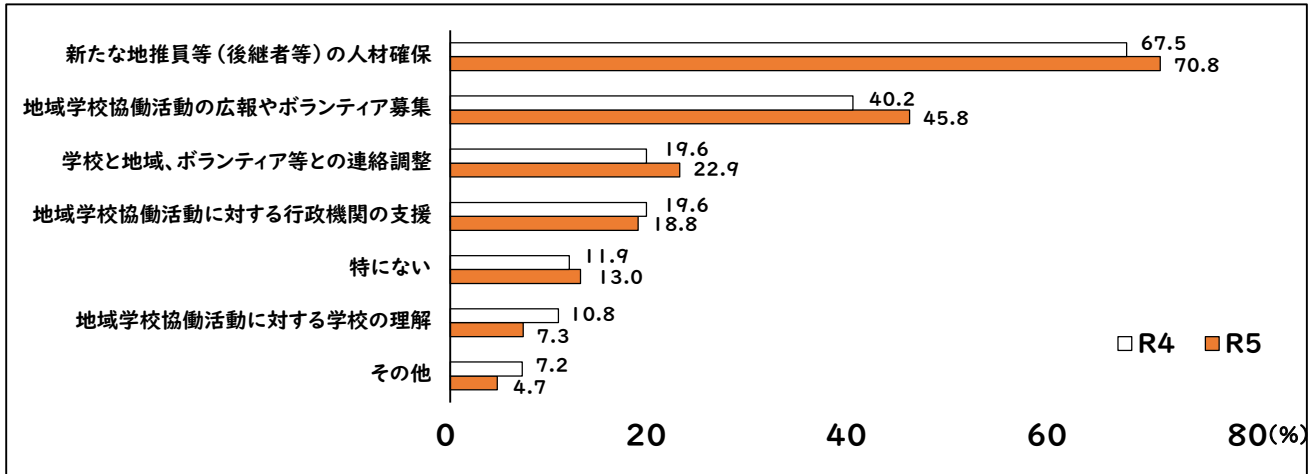
○「必要に応じて、教職員と打合せをすることで情報を共有している」の割合は、昨年度同様に最も高いですが、「自身のボランティアとしての活動の中で共有している」、「日常的に教職員と話をすることで共有している」、「定期的な教職員との打ち合わせにおいて共有している」の割合が増加しています。

◎ボランティアの要望把握の方法（複数回答）



○「自身がボランティアと一緒に活動する中で把握している」、「必要に応じて、ボランティアと打合せをすることで把握している」の割合は、昨年度同様に高いですが、「日常的にボランティアと話をすることで把握している」、「定期的に、ボランティアと打合せをすることで把握している」の割合が増加しています。

◎地推員等として活動に取り組むうえで、困難に感じていること（複数回答）



○「新たな地推員等（後継者等）の人材確保」、「地域学校協働活動の広報やボランティアの募集」について困難さを感じている地推員等の方が多いです。

◎ボランティア募集の際に行っている工夫について

- 分かりやすい見た目のボランティア募集リーフレットを作成し、区長会や自治会、各種団体等にも協力いただいています。
- 活動の様子や必要とする専門性が分かる内容のチラシを地域で回覧しています。
- グループコミュニケーションアプリ(BAND)を活用した募集を試験的に開始しています。
- 地域コーディネーターとボランティアが行っている活動の紹介(写真と活動内容の掲載)とボランティア募集をするチラシの全戸配布を行いました。

地域学校協働活動を推進するためには、地推員等の役割が重要ですので、学校と地域をつなぐ活動を引き続きお願いいたします。

- 自らのボランティアとしての活動だけでなく、学校と地域（ボランティア等）をつなぐ活動は、地推員等の基本的かつ重要な役割です。地域と学校とを上手につないでいただき、学校の立場を代弁していただくとともに、ボランティア等の思いも理解していただきますようお願いいたします。
- 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、様々な地域学校協働活動が再開されていることが伺えます。地域学校協働本部や学校運営協議会において設定・共有された目標を反映した地域学校協働活動を行うために、教職員やボランティアと日常的にコミュニケーションを取り、活動をコーディネートしていただきますようお願いいたします。
- 人と人とのつながりを広げるためにも、PTAや地域などへの地域学校協働活動の広報・普及啓発活動をSNS等も活用しながら積極的に進めていただくこと、また、ボランティア募集カードやフォーム等を活用してボランティアを募ることで、さらに多様な人材による地域学校協働活動の参画を今後ともお願いいたします。県教育委員会としても、多くの地域の方が地域学校協働活動に参加していただけるように今後とも啓発してまいります。

その他（地域学校協働活動推進員等の意見）

- 学校・地域の教育活動に関するニーズをしっかりと把握しながら連携を深めることが重要であると感じています。
- 学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの豊かな経験の機会創出や世代を超えた関係づくりを行うことが必要であると考えます。地域の中で成長していく子どもたちが、自分の住んでいる地域を愛し、大切に思えるつながりづくりをしていきたいと思えます。
- 学校と地域とのコミュニケーションの場を創出することで、アイデアが生まれ、地域で子どもたちを応援していけると考えます。
- 地域の力をさらに取り込むために学校と地域とがお互いに知恵を出し合うことで、子どもたちのよりよい成長に繋がると考えています。